

エビフリモちゃんの医療現場へ突撃インタビュー

心臓血管外科医の山田敏之先生に聞きました!!

静かなる殺人者

“サイレントキラー” 大動脈瘤のはなし



名古屋市立大学医学部附属
みどり市民病院
心臓血管外科 講師/部長代理

山田敏之 [やまだとしゆき]

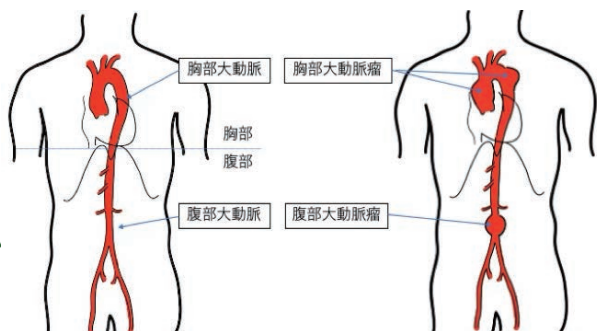
2009年名古屋市立大学医学部卒業、
2018年慶應義塾大学大学院医学研究科卒業。博士(医学)、外科専門医、
心臓血管外科専門医/修練指導者。

はじめに

日々健康に過ごしていても、体内で静かに進行する病気があります。その一つが「大動脈瘤(だいどうみゃくりゅう)」です。自覚症状がほとんどなく、「サイレントキラー(静かなる殺人者)」と呼ばれるこの病気について、原因、治療法、予防策をお伝えします。

大動脈瘤とは??

大動脈瘤は、心臓から全身へ血液を送る大動脈が膨らんでしまう病気です。動脈の壁が弱くなり、血圧に耐えられず膨らむことで瘤(こぶ)が生じます。この瘤が破裂すると大量出血を引き起こし、命に関わるため早期発見が重要です。大動脈瘤には、胸部にできる「胸部大動脈瘤」と腹部にできる「腹部大動脈瘤」の2種類がありますが、多くの場合、破裂寸前まで症状に気づきません。大動脈瘤の主な原因は、以下のようなものがあります。



1. 動脈硬化

血管が硬くなり、柔軟性を失います。高血圧、高コレステロール、喫煙、糖尿病などが要因です。

2. 遺伝的要因

家族に大動脈瘤の既往がある場合、リスクが高まります。

3. 年齢と性別

年齢男性に多く見られます。

4. 感染や外傷

一部の感染症や外傷も原因となります。



診断

大動脈瘤は画像検査で診断します。特に腹部超音波検査はスクリーニングに有効で、65歳以上の男性や喫煙歴のある方に推奨されます。他にもCTやMRIで正確な診断が可能です。



治療法

瘤の大きさやリスクに応じて以下の治療が行われます。

1. 経過観察

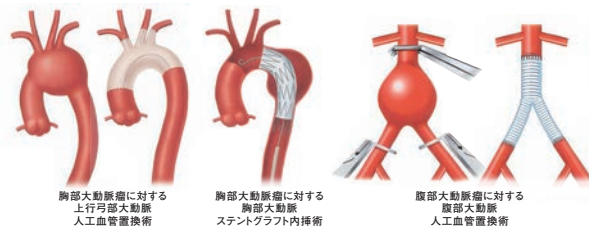
小さな瘤は定期検査で経過を見ます。胸部瘤60mm未満、腹部瘤55mm未満は6~12か月ごとの検査が推奨されます。

2. 手術治療

瘤が大きい場合や破裂のリスクが高い場合には手術が必要です。年齢やADLにより手術の方法を選択します。

①人工血管置換術: 瘤を切除し人工血管に置き換える確実な方法。手術による体への侵襲は大きいですが、確実性が高い治療です。

②ステントグラフト内挿術: カテーテルでステントを挿入する低侵襲治療。カテーテル手術なので体に対する侵襲は小さいですが、長期耐久性には人工血管置換術にはやや劣ります。



予防

日々の生活改善が予防につながります

1. 高血圧の管理 血圧を 140/90mmHg 以下に保つ。

2. 禁煙 動脈硬化の進行を防ぎます。

3. 適切な食生活 塩分を控え、野菜や魚を積極的に摂取。

4. 適度な運動 適度な運動で血管を健康に保ちます。

5. 定期的な健康診断 特にリスクのある方は超音波や CT 検査で早期発見を。

おわりに

大動脈瘤は静かに進行しますが、予防と早期発見でリスクを減らせます。また、動脈瘤が発見されても、全てが破裂したり手術したりするものではありません。気になる方は、かかりつけの先生、お近くのクリニック/病院にぜひご相談ください!

Information

予防医学が紡ぐ
幸せな健康未来
~みどり市民病院の挑戦~

人生100年時代、自分自身はもちろん、大切な家族の健康を守る予防医療。大切な人の【小さな異変に気付く】【ちょっと生活習慣を見直す】きっかけを見つけてみませんか。

